

夜行列車の行く末

高2 窪田明裕

春の鉄研旅行で北海道へ行った。旅程については別の記事を見ていただきたい。私にとっては現役最後の春旅行で十分楽しむことができた旅であったが、旅費はかなり高かった。発案者に文句を言うつもりは全くない。ただ3年前に同じく鉄研旅行で北海道に行ったときよりも1万円以上高かった。

北海道まで行くためにこの値段は仕方ないと思う。北海道に限らず、遠くに長い時間をかけて行く春旅行は今後もっと値上がりしてしまうかもしれない。北海道に関して言えば、原因の一つとして、夜行快速ムーンライトえちごの廃止があるだろう。定期列車が季節列車に格下げされていた。新宿駅を深夜に出て、明け方新潟に着く。快速なので、乗車券と指定席券で乗れる北へ向かう最後の夜行快速だった。私が乗ったときはだいたい人が入っていたから、車両の老朽化だろう。臨時列車だったので廃止になる前の季節は普通に走っていた。

このようなことを書いているからもうおわかりいただけただろうが、私は夜行列車が好きだ。特に寝台列車(いわゆるブルートレイン)が好きで、小学2年のとき(2009年)に富士に乗り、中学3年のとき(2015年)に北斗星に乗った。どちらも事情は異なるが、廃止直前という状況は同じだった。あの北斗星も元は普通のブルートレインである24系など。老朽化が目立った。24系で新しい現代の夜行列車を走らせるのは無理だろう。

かつては寝台特急にも需要があった。東京から九州に向かうブルートレインの一部は、山陽新幹線が開業しても、終電の新幹線が出発した後、東京駅をブルートレインが出発して、次の日の始発の新幹線よりも早く九州に行くことができた。しかし、新幹線のスピードアップなどにより、それができなくなっていった。私が富士に乗った時も、後から新幹線で追いかけてくる人もいた。遅くまで働いている鉄道好きには便利だが、新幹線に抜かされるようでは、寝ている時間に効率よく移動するという目的を果たせていない。

いかに安く移動できるかが求められる鉄研旅行では、夜行快速は便利だ。また、団体では夜行バスには乗れない。私たちと同じように青春18きっぷなどで旅行する人はわかるだろう。現在、夜行快速は東京⇄大垣のムーンライトながら、新宿⇄白馬のムーンライト信州があるが、どちらも国鉄時代の車両。とくにムーンライト信州の場合、中央本線に新型特急車両が導入されることになっているので、現在の車両自体が廃車になる可能性もある。

一方、空前のクルーズトレインブームである。JR九州のななつ星 in 九州、JR東日本の四季島、JR西日本のトワイライトエクスプレス瑞風が運行している。これらは何日もかけていろいろなところを巡るため、昼間も走るが、一応夜行列車としておこう。これらはカシオペアなどの高級志向を超えた超高級志向とでも言えるだろうか。1回100万円を超えるものも少なくない。庶民には到底手に届かない。クルーズトレイン専用ローンな

どがあっても不思議ではない。

現状では、このように夜行列車は二極化してしまっている。無責任な意見なのは重々承知だが、この時代にサンライズ瀬戸・出雲のような電車の夜行列車を全国で走らせたらどうだろうか。かつてのブルートレインが客車なのは、機関車のみを付け替えて、全国を直通できるということ、客車は自走しないので揺れが少なく、乗り心地がいいということと、自由に編成を組み替えられるということである。現在 JR 貨物以外ほとんど機関車を持っていないので電車が良い。そのうえ、この3つの利点については、現代の技術ならば電車でも克服できるのではないだろうか。

まず、全国を走れるという利点。四季島のように電化区間は電気で走り、非電化区間は、ディーゼルで走ればいだろう。今の車両は軽量化が進んでいるので、ローカル線でも走れるだろう。

次に、乗り心地の問題。これは今の新幹線や特急電車を見れば明らかだ。音も静かで、発車するときも昔の列車のようにガクガクしない。これは完全にクリアしているだろう。

最後に、編成を組み替えるということ。これは必要ないと思う。客車の組み替えは、車両を同じ形式に置き換えるだけであって、編成そのものの質をかえているわけではない。新しい電車ならば、故障も少ないので問題ないだろう。

いざ運行するとしたらどうするか。区間については、新幹線に追いつかれては意味がないので、そこまで長距離でなくてもいい。若い世代の利用客を増やすためには、個室であるのは必須だろう。かといって、そこまで広くする必要もない。完全に仕切られていれば大丈夫だろう。もう1つ大事なことは、私のような野暮な男には理解不能な「か〜わ〜い〜い〜」をいかに表現するかだ。1つの例として、室内を安眠効果&「か〜わ〜い〜い〜」効果のある桃色にしてみるのはどうだろうか。女性専用車を作ってその車両だけでもいい。

このように万人受けする新しい夜行列車があれば、最近見直され始めた列車の旅もこのように復活できるのではないだろうか。